

団体名 <b>糸満市立 光洋小学校</b>	連絡先 TEL : <b>098-992-0880</b> Eメール : <b>koyo@kouyous.itoman.okinawa.jp</b>
--------------------------	---

## 児童一人一人に確かな学力などの生きる力を育む「チーム光洋」の取組

### I 学校教育目標と重点目標

#### 1. 学校教育目標

- 礼儀正しく、心やさしい子
- めあてを持ち、進んで学習する子
- 健康で、ねばり強くやりぬく子

#### 2 重点目標

- 心の教育を充実させ「いじめゼロ」「不登校ゼロ」を目指した子ども一人一人が成長する楽しさを実感する学校づくりの推進
- 「支持的風土のある学校」の確立に努めるとともに学習規律を徹底させ、基本的な学習態度を身に付けさせる。
- 授業力の向上を目指し、授業を基盤とした実効性のある実践的な教育活動を展開する。
- 健康・体力の向上を図り、安全教育、安全管理を徹底する。

### II 実践内容

#### 1. 確かな学力の定着

- (1) 基礎的・基本的な知識技能の習得
- (2) 思考力・判断力・表現力等の育成
- (3) 発達の段階に応じた言語活動を行う能力の育成
- (4) 主体的に学習に取り組む態度の育成（支持的風土）
- (5) 自分の将来を意識させた学習（キャリア教育）
- (6) 家庭学習の習慣化、授業内容と連動した家庭学習
- (7) 学力向上推進と校内研修の充実
- (8) 学習を支える力の育成（学習規律の徹底）
- (9) コンピューター・視聴覚機器を活用した指導

#### 2. 豊かな心の育成

- (1) 教育活動全体で取り組む道德教育の研究、充実
- (2) 道徳的価値の自覚を深める授業の充実
- (3) 豊かな人間性を育む人権教育の充実
- (4) 発達の段階に応じたキャリア教育の推進
- (5) 人間関係づくりの力を育む取り組みの充実
- (6) 自己の将来や生き方を考える指導の充実

#### 3. 健やかな体の育成（健康・体力の育成）

- (1) 生活の関連を図った健康づくりの充実、保健・食に関する指導
- (2) 安全に関する指導
- (3) 日常的な運動、遊びを通じた体力づくりの充実



GIGA スクール構想に伴う公開授業  
 「算数\*プログラミング学習」10/29  
 ・黒板隣には、電子黒板を設置  
 ・児童一人一台タブレット端末準備  
 「Google classroom」「Google jamboard」  
 「Google スプレッドシート」

(4) 体力の向上を図る指導

#### 4. 基本的な生活習慣の形成

- (1) 生活リズムの確立
- (2) 学習規律・生活規律
- (3) 規範意識・マナーの育成

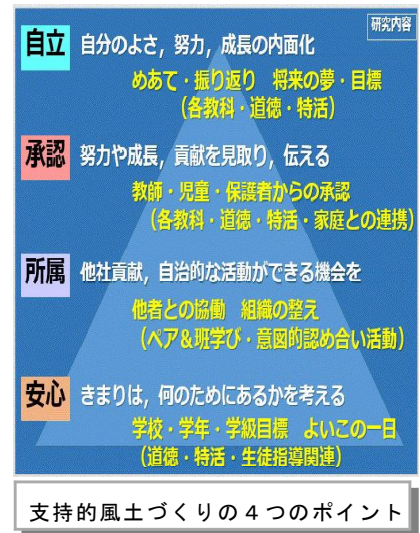
### Ⅲ 取り組みの実際

#### 1. 確かな学力の定着

(1) 道徳科を中心とした授業づくり (校内研修の充実)

校内研修では道徳科を中心に「支持的風土の4つのポイント」を生かした授業づくりを推進し、授業改善に取り組んだ。毎週月曜日の教材研究では授業の振り返りから行いPDCAサイクルで授業の質的向上を目指した。

また「自立」「承認」「所属」「安心」を意識した授業に取り組み、全員が授業を公開し管理職や同僚とのリフレクションを行うことで授業改善に努め、「わかる授業」の構築と支持的風土のある学級づくりに取り組んだ。



授業の振り返り (授業の板書をもとに)



多様な授業展開「役割演技」

(2) 専門性を活かした校内人材の活用

① ICT機器の活用の「GIGAスクールの研究授業」

校内でプログラミング教育の専門性を持った教師が中心となり、授業づくりに取り組んだ。10月には、教育センターの指導主事と連携した授業研究会を行い、ここで学んだICTの活用を他の教師も実践し「わかる授業」づくりにいかすとともに、教師同士が気軽に学び合える環境づくりに資する取組となった。



県GIGA算数授業 (6年)  
「プログラミング学習」



島尻教育研究所研究員研究授業  
特別活動「学級会」(3年)

② 「話し合い活動の充実」(特別活動) 公開授業

今年度は、特別活動研究員として本校教諭が『「主体的・対話的で深い学び」に関するこれからの時代に求められる資質・能力を育む新しい授業』について提案した。

昨年度の教職員の反省で「話し合い活動」について、指導方法などの授業実践に課題を持っていることが挙げられ、島尻教育研究所授業研究会では、支持的風土のある学級経営と話し合い活動の実践について全職員で学ぶ機会とした。

そこで学んだことをいかして、支持的風土のある学級経営や特別活動の実践に取り組んだ



### (3) 学びを止めない授業実践

今年度もコロナ感染症蔓延防止対策で、休業日や分散登校など通常の登校ができない日が多かった。その中で、「児童の学びを止めない」取り組みに全職員で計画的に取り組んだ。

#### ①6月7日からの休業期間、5年生と6年生のみ

「オンライン朝の会」に取り組んだ。初めてのオンラインに担任だけでなく、全職員が参加し機器の操作や画面越しに話す児童との対話や、オンラインによる配信の経験を積んだ。



①各学級、複数の職員で参加、共有「オンライン朝の会」

#### ②対面とオンライン授業をセット「ハイブリット型授業」の実践



②9月の分散登校の際には「学びを止めない」という視点に立ち、対面授業とオンライン授業をセットにした「ハイブリット型授業」を3年生以上の学級で3校時まで行った。4校時以降は実技教科等も含め対面授業を行い、登校していない児童は自宅学習に取り組んだ。1, 2年生はプリント教材等を配布して各家庭での課題学習を行った。

①1月の休業期間においては、ICTを活用したより質の高いオンライン授業を目指し実施した。休業期間が長引く中、児童の「学びを止めない」ためにオンライン授業に全クラスが取り組んだ。オンライン授業に初めて取り組む低学年の担任や経験のある高学年の担任が、お互いに情報を共有し、ジャムボードやタブレットドリル、eラーニング等の活用方法についても教師間で学び合い、オンライン授業への不安を軽減しながら全体としてオンライン授業力の向上を図った。



③ホワイトボードの活用



③より対面に近い授業スタイル



③理科「水の姿の変化」 演示実験装置

(4) 思考力・判断力・表現力等の育成

①子供同士が練り合う学習を通して、コミュニケーション能力の向上を目指す。

(ア) 学習過程（授業の流れ）の基本型を定めて、一人ひとりに学習の見通しを持たせる。

(イ) 学習形態の変化による「学び合い・練り合い」を意識した授業づくり。

(ウ) どの子も安心して学習できる集団作り。

②「協働的な学びの場」の設定

(ア) ペアやグループでの学びを全体に広げ、お互いの思考の違いにより、深い学びを生み出していく。

(イ) 教師の関わり方や声かけの仕方、誰に話をさせるか等の教師の判断力・技術力の育成を図る。



ペアで考えを共有する姿

(5) 主体的に学習に取り組む態度の育成

①「課題設定と導入」の工夫

(ア) 知的好奇心を揺さぶるような課題と導入の工夫

(イ) 学習課題を一人ひとりに把握させるために、課題をプレゼンテーションで可視化

(ウ) 授業作りをするにあたって単元を見通した課題設定

②一人ひとりへの深い学びの保障、支持的な温かい学校集団作り

(ア) 児童が意欲的に考え、考えを伝えたい、友達の考えを聴きたいと能動的に動く授業作り

(イ) 自他共に一生懸命に考え、共に高まっていけるような支持的な集団作り

(ウ) 友達の考えをよく聴くことで自分の考えが高まったり、より高めたりできる授業作り



児童が主体的に授業に臨む様子

2. 豊かな心の育成

(1) 教育活動全体で取り組む道徳教育の研究、充実

校内研修で道徳科の授業づくりを行いながら、道徳科を要にそれぞれの発達段階に合わせた体験活動等を行った。授業と連動させながら、支持的風土の「4つのポイント」を意識した声掛けを学校教育全体で行った。

また、毎月の「人権の日」には、校内放送で毎月の人権のテーマについてミニ講話を聴き、カードに自分の目標を書き掲示し、児童の意識の継続化を図った。



朝の栽培活動（花へ水かけ）



児童の振り返りカードを掲示



「人権の日」放送と映像に、耳も目も心も傾ける児童の様子



#### 4. 基本的な生活習慣の形成

(1) 学習規律・生活規律の定着、規範意識・マナーの育成

① 「レインボータスク（光洋小の凡事徹底）」について

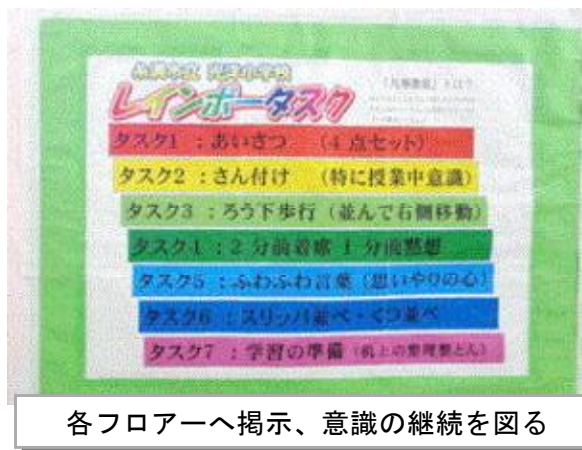
本校では、児童に身に付けさせたい7つの凡事徹底として

- ・タスク1・3・6は「そろえる心（習慣）」
- ・タスク4・7は「学習規律の徹底」
- ・タスク2・5は「思いやりの心」

に取り組み、年間を通して児童や学級・学年で振り返りを行いながら児童が自然に身に付けるよう取り組んだ。



学級用：学級集計用・掲示用



各フロアへ掲示、意識の継続を図る



個人用：毎月の自己チェック

### IV 成果と課題

#### 1. 成果

- (1) 児童の実態や校内研修で学んだことを全体で情報を共有し、各学年の取り組みに活かしながら取り組んだことで、授業力向上へつながった。また、支持的風土のある学級づくりに取り組むことで児童が安心して授業に参加できるようになり、その結果、学級への所属感が高まり主体的に活動する児童が増えてきた。
- (2) 道徳科を中心として相手の立場になって考えることを意識させたり、レインボータスクの取り組みにより気持ちの良いあいさつやふわふわ言葉を使う児童が増えてきた。
- (3) 校内OJTを活かした組織体制をつくったことで、教師一人一人の意欲が高まり、資質向上につながった。

#### 2 課題

- (1) 協働的な学びの場として、ペアやグループの話し合いを入れたが、お互いの感想の交流だけに終わり、深い学びにつながる話し合いが十分できず、思考力・判断力・表現力の育成にいかすことができないことがあった。
- (2) 今後、ICTを活用した授業改善に加え、オンライン授業の質の向上など、継続した授業改善が求められる。児童が「わかる授業」や「楽しんで取り組めるタブレットを活用した授業」など一人一人の学びを意識し、個に応じた指導を行い確かな学力を育むことが今後の課題である。積極的な学びと経験を重ね、個人の授業技術を高め、それを共有する学び合いを組織的、計画的に進める必要がある。

(2) 発達の段階に応じたキャリア教育の推進、  
 自己の将来や生き方を考える指導の充実、  
 自分の将来を意識させた学習

- ①育てたい姿をイメージしながら年間を通した計画
  - (ア) 話し合い活動のポイントの確認
  - (イ) 行事の充実を図る(異学年交流等)
- ②キャリアパスポートの活用
- ③4年生 総合学習の時間「川の学習 報得川」  
 観察ボランティア
- ④「おやじの会」による教育環境整備
- ⑤市役所職員による出前講座
- ⑥5年生「セカンドスクール(1泊2日)」の実施
- ⑦6年生「職業人インタビュー」の実施



成長の記録を綴りことで、自分の成長を実感できるポートフォリオ形式の「キャリアパスポート」



ボランティア講師によるエイサー指導



市役所職員による「社会」出前講座



お年寄りとの交流会  
 5年：総合(福祉)



沖縄水産高校で溶接について学ぶ5年生

### 3. 健やかな体の育成(健康・体力の育成)

(1) 日常的な運動、遊びを通した体力づくりの充実

①学期毎「チャレンジタイム(&運動週間)」の設定

一学期には短縄大会、二学期には長縄大会、三学期には、持久走(マラソン大会)を開催し、運動を楽しみ、体力をつける取り組みを行った。コロナ対策として、密を避けた会場を設定するなど工夫をしながら、内容や方法を変え開催した。



1学期：チャレンジタイム  
 各学級で短縄を練習



ソーシャルディスタンスに留意  
 「ミニミニ運動会」開催



2学期：チャレンジタイム  
 隣学年対抗「学級長縄大会」